

HOSOMI MUSEUM DIGITAL NEWS LETTER

トピックス情報

- ・表紙
- ・「展覧会のここが見どころ①」賀茂社競馬図屏風
- ・「展覧会のここが見どころ②」やすい祭牛祭図屏風
- ・「展覧会のここが見どころ③」京都の絵師たち
- ・「展覧会のここが見どころ④」京都に誕生した琳派
- ・EVENTS
- ・INFORMATION
- ・ARTCUBE NEWS

夏季特別展

細見美術館アートキャンパス2010ー日本美術の見方 みやこ 京都編ー

How to look at JAPANESE ART

細見美術館

夏季特別展

細見美術館
アートキャンパス
2010

Art Campus
開校
2010.7.31〜

7月31日(土) - 9月26日(日)

北野社繪圖屏風
四香河原開巻
伊藤若冲
円山北學

日本美術の見方 みやこ 京都編

主催：細見美術館
後援：都庁教育委員会、京都市観光協会、京都市内博物館連携推進協議会、京大
休館日：毎週月曜日(祝日の場合、翌日)
開館時間：午前10時～午後5時(入館は2時30分まで)
入館料：一般1,000円(800円) 学生500円(300円) 65歳以上のお年寄り半額
会場：細見美術館 京都市左京区岡崎番町9-3 075-752-5055 <http://www.artmuseum.or.jp>

細見美術館と大学をつなぐ Campus Membership

細見美術館アートキャンパスメンバーシップ

2010年度 加盟校 館長賞、学生協力賞、観覧人賞あり
京都市芸術大学・京都光華女子大学・短期大学部・京都精華大学
京都経済芸術大学・短期大学部・成安堂形大学・佛敎大学 06690

ご挨拶
「細見美術館」は、京都市左京区岡崎番町9-3にあり、
ホソミ美術館 HOSOMI MUSEUM

この夏も細見美術館では「アートキャンパス」を開校します。これは、かねてより当館が実施するキャンパスメンバーシップのさらなる周知を目指し、美術館をキャンパスに見立てた展覧会企画です。二回目となる今年は、「日本美術の見方ー京都編ー」と題して、当館コレクションを中心に京都に縁のある江戸時代の作品をクローズアップします。「京都の町並」「京都の祭礼と遊楽」「京都の絵師たち」「京琳派の小さき世界」の4つのテーマを設け、人々にとって憧れの地であり、多彩な美意識や価値観が共存する都市・京都の魅力をご紹介します。さらに作品をより身近に楽しんで頂くため、館長によるアートトークや、注目作品とその関連情報を盛り込んだアートシートなどもご用意しています。本展を通して普段とは違った日本美術の見方、楽しみ方の鍵を見つけていただければ幸いです。

◀ 細見美術館アートキャンパス2010 チラシ表面

細見美術館

2 0 1 0
S U M M E R
I S S U E
N U M B E R 0 2

かもしゃくらべうまずびょうぶ
賀茂社競馬図屏風

京都市登録無形文化財にも登録されている賀茂競馬は、毎年5月5日に葵祭の前儀として上賀茂神社で行われます。もともと宮中武徳殿では5月5日に、天下泰平・五穀豊穰祈願のために競馬が行われていました。平安時代後期の寛治7年(1093)、この宮中の競馬会を移したものが上賀茂神社の競馬の始まりとされています。

この競馬を題材にした作品は絵画のみならず、文学作品にも多く見受けられます。清少納言は、『枕草紙』で「胸つぶるるもの、競馬見る」として、「はらはらするもの」の筆頭に競馬を挙げています。また、吉田兼好は『徒然草』の中で、神事より、盛大な祭礼行事を見ようと集まった人々の混雑ぶりに触れています。

さて、この屏風では神社境内に直線の走路が確保され、その両側に埒らちと呼ばれる柵のりじりが描かれています。通常、競馬では左方と右方に分かれた10人の乗尻のりじり(騎手)は2つの組に分かれ、1騎ごとに勝負します。本作では馬上の尻懸らしきものに赤と緑の区別がされているのがわかります。

また、大勢の見物人が、乗尻の乗った馬が馬場を力強く駆け抜ける様子を見逃すまいと埒の上や周囲に群がっています。さらに、木の上に登る人や走路に立ち入った人々もいます。このように熱狂した観客と馬が入り乱れた様子が特徴的に描かれているため、本作が神事を描いた作品であることをつい忘れてしまうほどです。

一方、走路から少し離れた室内では、貴人と思しき人々が神事の様子を冷静に観覧しています。本図はまさに動と静という二つの対照的な情景が窺える珍しい祭礼図といえるかもしれません。



賀茂社競馬図屏風 部分



現在でも実際の走路には「馬出しの桜」「勝負の楓」等、幾つかの目印となる木があります。恐らくこの屏風の5扇目に描かれている柵で囲まれた楓が、ゴール手前の「勝負の楓」と一致すると思われます。

来年は是非、本物の賀茂競馬をご覧になってはいかがでしょうか。

展覧会の「こころ」が見どころ①

夏特別展
細見美術館
アートキャンパス
2010

日本美術の見方京都編

やすらい祭・牛祭図屏風 浮田一蕙 筆

京都の三大奇祭といえば「今宮神社のやすらい祭」、「広隆寺の牛祭」そして「鞍馬の火祭」があります。ここでは、そのうちの二つを描いた江戸後期の画家 浮田一蕙の作品を採りあげます。

まず右隻には、春に紫野・今宮神社で行われる「やすらい祭」が描かれています。この祭は「夜須礼祭」、「安良居祭」とも記されます。これはもともと平安時代に疫病が流行したのをきっかけに、疫病退散を願った「花鎮^{はなしずめ}」の祭です。鬼の扮装をした子供たちの行列が「やすらいの花や」と囃しながら町内を練り歩き、風流花傘を今宮神社へ奉納しに行きます。作品では画面中央の男性が花傘のバランスが崩れないように支える姿が描かれています。この花傘に入ると「厄を逃れられる」という言伝えから、競って傘の中へ入るのが習わしとなっています。

一方、左隻に描かれた太秦・広隆寺の「牛祭」は、旧暦の9月12日の夜、戌の刻になると赤と緑の鬼面の四天王を先導に、奇妙なお面をつけて牛に乗る「摩多羅神^{またらじん}」の登場で始まります。作品では大きな葉を3枚頭につけた摩多羅神の姿が描かれており、頭上にシイタケなどが描かれた紙をつけた赤面、青面の鬼を二人ずつ従えています。(現在の祭では摩多羅神の出で立ち白装束に北斗七星を刻んだ行燈冠を載せ、白塗りの仮面をかぶっています。)

さて、一蕙は祭や風俗を単に写したのではなく、この作品を通してさまざまな試みをしています。まず、右隻2扇目の赤ら顔の人物には、国宝「伴大納言絵巻」(平安後期)に登場する人物の特徴に通じるものがあります。

さらに、よく見ると牛を引く人間の衣服と牛の胴体と同じ文様になっています。これは地紙に雲母^{きら}刷りされた菊唐草の唐紙を使用しているからです。その文様を着物の柄に見立てるといふ趣向が凝らされています。



やすらい祭・牛祭図屏風 部分

幕末に復古大和絵の画家として活躍した一蕙。本作は古画の学習成果を反映し、また奇祭を知る研究材料も持合せた作品に仕上がっています。

今も続くこの二つの奇祭を見る機会があれば、是非、描かれた祭と実際の祭とを比較してみたいかがでしょうか？また、新たな発見があるかもしれません。

展覧会の「こころ」が見どころ②

夏季特別展
細見美術館
アートキャンパス
2010
日本美術の見方 京都編

みやこ
京都の絵師たち

京は平安の頃より文化・芸術の中心地として人々にとって憧れの都市でした。特に江戸時代の半ばになると、商人・職人といった町衆の台頭により、絵画を需要する人たちが増え、さまざまな好みに対応するように、伝統的な流派だけではなく権威に縛られない町絵師たちが登場し、活躍しました。中でも注目されるのが、円山応挙(1733—1795)の登場。写実的な表現をとりながら、理想的な美の世界を描くことで町衆の支持を得、多くの門弟を抱えて流行画家となりました。「絵は、応挙の世に出て、写生といふことのはやり出て、京中の絵が一手になつた事じや」という上田秋成(1734—1809)の言葉からも、応挙が京都画壇の主流となっていたことがわかります。応挙の一門は、情趣的な写生画を展開した呉春(1752—1811)一派とあわせて円山・四条派と称し、京都を代表する画派として現代でも親しまれています。彼らの作品は、季節感のある花鳥画や吉祥の意味をもつ主題を扱ったものが多く、当時の町衆の好みを反映しているといえます。

また、この頃発行された『平安人物志』(明和5年版より慶応3年まで9版発行)という、京都に遊学する人のために編纂された文化人名録を見ると、当時活躍していた絵師の名が大勢出てきます。絵師を目指す人や、好みの絵画を求めたい人にとって京は注目の町だったことでしょう。円山・四条派以外にも池大雅や与謝蕪村ら京坂を中心に広まった文人画、今注目の伊藤若冲や長澤芦雪、曾我蕭白といった個性的な絵師、原派、岸派など、既成の表現法にとらわれない、新しい流派や個性が次々に誕生し、活躍していたことが伝わります。

彼らは京の中心地、主に御所の南から四条通り周辺(現在の中京区・下京区)に居を構え、市井で作画活動を行っていました。先にあげた「四条派」とは、まさに

通りの名にちなんだ呼称です。彼らは流行を肌で感じ、人々の好みに応えていたのでしょう。一方で絵師の番付なども発行され、需要する側も世間での評判や価格の相場などの情報を入手し、さまざまなスタイルの中から好みの絵を探し求めていたようです。

個性的な絵師たちが住み、活躍した当時の様子を想像しながら、アートの町・京都を散策してみたいかでしょうか。



円山応挙筆 若竹に小禽図 部分

展覧会の「こころ」が見どころ③

夏季特別展
細見美術館
アートキャンパス
2010

日本美術の見方 京都編

みやこ
京都に誕生した琳派

日本美術の代表選手、琳派。華やかな作風で現在でも大変な人気を誇ります。その誕生は京都。江戸初期、京の町衆であった本阿弥光悦(1558-1637)が、扇絵などで人気を博した俵屋の宗達(生没年不詳)とともに、平安朝の美意識を当世風にアレンジし、装飾的な作品を手掛けました。彼らが築いた新たな美の世界は、当時の人々の目に「都の美」として映ったことでしょう。

その約100年後に登場した尾形光琳(1658-1716)は、京の高級呉服商・雁金屋に生まれ、着物のデザインに触れて育ちました。光琳はスタイリッシュな作風を展開。絵画だけでなく、団扇や香包などさまざまなもののデザインを手掛けています。光琳が考案した意匠は「光林模様」と呼ばれ、染織や蒔絵にも用いられてブームを巻き起こしました。こうした意匠は、現在でも着物や和菓子などに見つけることができます。まさに普遍的なデザインといえるでしょう。また光琳の弟の乾山(1663-1743)も陶器の分野で活躍。琳派の装飾美を器の世界で表現しました。

京都で培われた琳派の美は、さまざまな絵師の目を通じて新たな世界を生み出しました。池大雅や円山応挙、伊藤若冲など、京で活躍した絵師たちにも影響を与えたといわれており、琳派はこの頃には京の伝統的な美意識として根付いていたといえます。

江戸後期になると、京出身の中村芳中(?-1819)が登場します。光琳風の絵師として大坂を中心に活躍した芳中は、琳派の技法のひとつ「たらし込み(墨や絵具の滲^{にじ}みや暈^{ぼか}しを利用する技法)」を好み、独特な表現を身につけました。芳中の手にかかると琳派おなじみのモチーフもどこかユーモラスでおおらか。

一方江戸では、光琳を慕った酒井抱一(1761-1828)が瀟洒な画風を築き、多くの門弟を抱えて江戸琳派と呼ばれる一派を形成。「都の美」は江戸でも新たな花を咲かせたのです。

明治に入ると生粋の京都人、神坂雪佳(1866-1942)が活躍しています。工芸図案家として高く評価された雪佳は、光悦や光琳をお手本として絵画だけでなく染織や漆芸、陶芸など幅広い活動を展開しました。室内装飾や庭のデザインなども行っており、雪佳は生活にまつわるものをトータルで美しく飾ることこそが究極の美と考えていたのでしょう。

京は伝統に裏付けられた美意識を持ち、また生活の中に自然に美を取り入れてきた町。そんな町が育んだ京琳派は、もはや誰もが疑うことのない日本の美として生き続けているのです。

展覧会の「こころ」が見どころ④

細見美術館
アートキャンパス
2010

夏季特別展

日本美術の見方 京都編

館長ARTトーク

初心者から気軽に楽しめる
トークイベント



※聴講には入館証が必要です。

ARTシート

毎回、注目の作品や展示の
見どころ解説とともに、
細見美術館おすすめの
散策スポットをご紹介します。



※各シートは、期間・数量限定
※内容・タイトルに変更がある場合もございます。

7
31
(土)

14時～ ギャラリートーク&スライドレクチャー
琳派と能



賀茂社競馬図屏風
—洛北の美を訪ねて—



8
14
(土)

14時～ ギャラリートーク&スライドレクチャー
京都の町並



やすらい祭牛祭図屏風
—三大奇祭をめぐる—



8
28
(土)

13時～
スペシャル鑑賞会
伊藤若冲—細密の世界—



みやこ
京都の絵師たち
—若冲遊覧—



9
11
(土)

16時～
スペシャル対談
尾崎真人×細見良行
(京都市美術館学芸課長) (当館 館長)



みやこ
京都に誕生した琳派
—雪佳散策—



観月のミニ茶会 季節の趣向をお楽しみいただき、初心者を対象にしたお茶会。
9月18日(土)、19日(日) 料金:3000円 *事前申込制*

"鑑賞イス"が登場 展示室に、持ち運びOKの丸イスを設置。お気に入りの作品を、じっくり鑑賞してみてください！



夏季特別展
細見美術館
アートキャンパス
2010
日本美術の見方 京都編

「細見美術館アートキャンパス2010—日本美術の見方 京都編」に再度ご来場（当日は除く）いただきますと、抽選で限定イベントや展覧会ペアチケットをプレゼントいたします。

リピーターキャンペーン

- ・ 限定20名 館長ARTトーク「スペシャル鑑賞会—伊藤若冲 細密の世界—」（8月28日）に、抽選でご招待

応募締切 8月22日(日)

- ・ 次回展「琳派展ⅩⅢ お江戸の琳派と狩野派—板橋区立美術館×細見美術館—」（2010年10月2日～2010年1月16日）ペアチケットを、20組40名様にプレゼント

応募締切 9月26日(日)



★スペシャル鑑賞会に当選された皆様へは、8月23日(月)10時までにご連絡させていただきます。

★ペアチケットプレゼントの当選発表は、発送をもってかえさせていただきます。

細見美術館友の会

「細見美術館アートキャンパス2010 ー日本美術の見方 ^{みやこ}京都編ー」展 限定

シーズンメンバー

一般1,500円 学生1,000円

【メンバー特典】

1. 会員証のご提示で、「細見美術館アートキャンパス2010 ー日本美術の見方 ^{みやこ}京都編ー」展 会期中、何度でもご入館いただけます。
 2. ご入会当日より、下記企画（リピーターキャンペーン）に、ご応募いただけます。
 限定20名 館長ARTトーク「スペシャル鑑賞会 伊藤若冲ー細密の世界ー」（8月28日）に、抽選でご招待
応募締切 8月22日
 次回展「琳派展ⅩⅢ お江戸の琳派と狩野派ー板橋区立美術館×細見美術館」ペアチケットを、
 抽選で20組40名様にプレゼント 応募締切 9月26日
 3. 期間終了後でも、会費の差額分をお納めいただきますと、正会員にランクアップしてご継続いただけます。

 正会員（フレンドシップメンバー）会費：3,000円 ※差額 1,500円
 特典 展覧会年間無料観覧（ご本人様に限る） 細見美術館主催・共催のイベントへのご招待または割引
- ★ランクアップ継続入会は、当館受付窓口にて承っております。（2011年1月16日迄）
 ご入会の際には、シーズンメンバー会員証をお持ちください。なお、正会員期限は2011年7月末日までとさせていただきます。
4. 会員証のご提示で、次回展「琳派展ⅩⅢ お江戸の琳派と狩野派ー板橋区立美術館×細見美術館ー」（2010年10月2日～2011年1月16日）を、ご優待料金【一般1,000円→800円 学生800円→600円】で
 ご入館いただけます。

美術館窓口にて、入会受付中！

ARTCUBE SHOP

新商品ニュース 若冲ファン必見！！ 「若冲布袋」



六兵衛窯「若冲布袋」¥7,980
高さ9.5cm

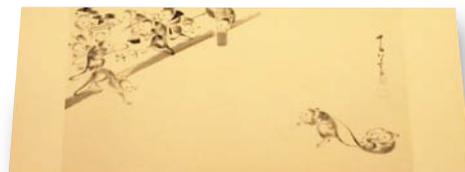
伏見稲荷のお土産として古くから人々に親しまれてきた伏見人形。近くに住んだ晩年の伊藤若冲は、数多く描いたそうです。このたび、若冲画をもとに、京都・五条坂の六兵衛窯が陶人形「若冲布袋」を製作しました。明るくあたたかな雰囲気と無心に笑う姿は、若冲の絵そのもので、見ている私たちの心も和ませてくれます。ぜひこの機会に開催中の展覧会「細見美術館アートキャンパス2010」に、展示されている若冲の「伏見人形図」と見比べてみてください。どちらもとっても可愛らしい顔をされていますよ！



「伏見人形図」伊藤若冲
細見美術館蔵

期間限定・若冲コーナー登場！

「細見美術館アートキャンパス2010」展の期間中、ショップに「若冲コーナー」が登場します。お馴染みの若冲グッズはもちろん、新たに登場したのものもたくさん！ぜひチェックしにいらしてください。



はがき ¥158
大判のはがきはファン必見のグッズです。当館所蔵「鼠婚礼図」も登場しました。



はがきセット(8枚) ¥735
佐野市立吉澤記念美術館蔵・重要文化財「葉蟲譜」をデザインしたはがきのセット。ユニークなモチーフは若冲ならでは！



ポチ袋(4種類・各3柄) ¥368
青裳堂書店蔵『玄圃瑤華』をデザインしたポチ袋のセット。額に入れてお部屋のインテリアにするのもオススメです。

ARTCUBE SHOPお問合せ先 TEL075-761-5700

ARTCUBE SHOP

おすすめアイテム ガラス

暑い日が続いていますが、こんな時こそガラスの器で見た目から“涼しさ”を演出してみるのはいかがでしょうか？

当店で取り扱っているガラス商品は、シンプルながらも個性的なものばかり。

日常使いとして食卓を彩るのはもちろん、夏の贈り物としてもオススメです！



かわいいデザインはお部屋のインテリアにもピッタリ。ちょっとしたお花を挿してみても◎。

小鳥 ¥945



古典的な文様が目を引くグラス。入れる飲み物の色によって違った雰囲気を楽しめます。

大正浪漫グラス 各 ¥2,100



紙をクシャクシャにしたようなデザインが面白い。重量感のあるグラスはお酒がよく似合います。

小松誠 クランブルワイン S ¥3,045
L ¥3,465



小松誠 クランブルオールド ¥2,940



お醤油やオリーブオイルなどを入れて食卓のお供に。

プチボトル すりガラス ¥893
クリアガラス ¥735



優しいフォルムとシンプルなデザインの器は、どんな料理とも相性抜群！

ボウル S ¥788
M ¥998
L ¥1,155



暑い日はこんなセットで冷酒を飲んでみては？

エクボ 冷酒杯 ¥630
ぐい呑 ¥578
カラフェ ¥945

ARTCUBE SHOPお問合せ先 TEL075-761-5700

CAFÉ CUBE

Jazz Night @ C

SPECIAL

2010年 8月 19日 19時スタート

このイベントは
終了致しました。
たくさんのご来場、
誠にありがとうございます
ございました。

¥2000(1ドリンク付き)



Jazz Vocalist 折原ようこと

Special Guest 寺崎 純 (P) ほか

京都・岡崎・細見美術館 B2 CAFÉ CUBE

お問い合わせ・ご予約は... **075-751-8606**

〈アクセス〉市バス「東山二条」地下鉄・東西線「東山」下車。東山二条東入
京都会館、疏水を挟んで西側

折原ようこのHome Page

<http://www.ab.auone-net.jp/~jazzsing/index.html>